

科目	情報 I	単位数	2 単位	学 年	第 1 学年	講 座	
教科書	情報 I (日本文教出版)		副教材等	情報 I サブノート (日本文教出版)			
学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。						

評価の観点	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

時 期	学 習 計 画 及 び 内 容		評 価 方 法				
1 学 期	4 月	序章 情報社会に生きるわたしたち 1 なぜ情報について学ぶのか 2 「情報 I」で学ぶこと 3 学習の前に確認しよう 第 1 章 情報社会の問題解決 1 情報の特性 2 メディアの特性 3 問題解決の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・情報について学ぶ意義を理解する。 ・「情報 I」で学ぶ内容を理解する。 ・「情報 I」の学習をはじめる前に、中学校での学習内容を確認する。 ・情報の特性を考える。 ・メディアの特性を考える。 ・問題解決の考え方を身につける。 ・著作権侵害について考える。 ・個人情報について考える。 ・サイバー犯罪について考える。 ・ソーシャルメディアの適切な活用方法を身に付ける。 ・情報技術の発展と社会の変化を考える。 	授業態度 定期考査 サブノート グループワーク プレゼンテーション			
	5 月	4 法の重要性と意義—知的財産権 5 法の重要性と意義—個人情報 6 情報社会と情報セキュリティ 7 情報技術の発展による 8 情報技術の発展による社会の変化					
	6 月	技法 1～7 第 2 章 コミュニケーションと情報デザイン					
	7 月	1 メディアとコミュニケーション 2 情報のデジタル化 3 情報デザイン			授業態度 定期考査 サブノート グループワーク プレゼンテーション		
	2 学 期	8 月			第 3 章 コンピュータとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・CPUによる演算のしくみを理解する。 ・アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る。 ・変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 ・グループ分けプログラミングの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。 ・プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。 	授業態度 定期考査 サブノート グループワーク プレゼンテーション
		9 月			章末実習 技法 1～5		
		10 月			1 コンピュータのしくみ 2 アルゴリズムとプログラム		
11 月 12 月		3 モデル化とシミュレーション 章末実習 技法 1～2					
3 学 期	1 月	第 4 章 情報通信ネットワークとデータの活用 1 情報通信ネットワークのしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータネットワークの構成を理解する。 ・データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 ・暗号化などの情報セキュリティを高める。 ・情報システムが社会をどのように支えているか理解する。 ・データベースの役割について理解する。 ・データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。 ・数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。 	授業態度 定期考査 サブノート グループワーク プレゼンテーション			
	2 月	2 情報システムとデータベース					
	3 月	3 データの活用 章末実習 技法 1～3					

学習の方法	実習を中心に基礎的・基本的な技術を広く習得する。ICT機器を使用し、教科書とサブノートの内容を説明する。説明を良く聞き、真剣に授業に臨むこと。授業内容をサブノート等に自分なりに分かりやすくまとめること。内容に応じて、理解を促す補助教材としてプリントを配布する。こちらも整理しておくこと。サブノート問題を授業や課題で利用する。丁寧に仕上げとともに自主学習においても大いに活用すること。実習内容はパソコンやアプリケーションを用いた学習を行う。こちらも補助教材として、プリントを配布することもある。また、必要に応じて動画を見ることもある。分からないときは、すぐに質問して、根気強く取り組むこと。特にタイピング練習を繰り返し行うので目標を持って粘り強く取り組みこと。
-------	---

備考	
----	--